己斐の歴史めぐり案内地図

西国街道(旧山陽道)の歴史めぐり (己斐橋から瀬切石までの約1Km)

①旧己斐橋

己斐橋は城下から佐伯郡へ出る橋という ことで出郡橋と佐伯郡と沼田郡との境 にあるので佐沼橋と呼ばれたこともある。 毛利氏の時代に架橋されたもので西国から の反国にあたり眺略上重要であった。 木橋になったのは明治10年代、コンク リート橋になったのは1926年(大正15年) 幅3.7m、長さ80mだった。

②キリシタン殉教之碑

慶田寺跡がキリシタン弾圧を始めたのは 1628年(寛永5年)長崎において である。 広島藩でも迫害と弾圧が行われた。 1634年(寛永11年)己斐の河原でキリシ タン5人が刑に処せられた。1984年(昭 和59年)他地でも多くの殉教者があった ことを伝えるため碑場があったとされる この地に代表して殉教の碑が建立された。

③源左衛門橋

江戸時代の初めの頃、ある大名が通りか かると八幡川が氾水して用を渡れず困っ ていた。近所の柴字源左衛門が板を持っ て来て渡してやった。それでこの名が付 いた。 尚、柴竹源左衛門は第3代広島城主浅野 長晟公の功友道で一緒かれて己斐「柴竹 庄」をもらい住んでいた。

④別れの茶屋

己斐の源左衛門橋を渡っておよそ200 メートル西進したところに茶店があった。 現在はパン屋である。 柴竹家の 家伝書によると浅野長晟公が 広島城の柴竹源左衛門を新屋敷、曲輪 諸を して貰れたからと伝えられている。 浅野長晟公は1619年から1632年の間、寄 3代広島城主である。

⑤己斐松原跡

1633年(寛永10年)、 藩呼応見校の高張を 契機に領内の道路網 の整備が一挙に進め られた。 己斐の西国街道は己 斐橋から廣切をま おさぞ1キロメート ル、街道松が3間幅 に植えられたの它注 算上は約400本にな る。己斐松原はその 姿形が素晴らしく、広島の三大松原に数 えられていた。昭和45年、松枯はなくなった。 写真はあり上日のしべれ松。

⑥善法寺

曜雲山善法寺。浄土真宗本願寺派 1556年(弘治2年)第1世恵善和尚が 阿戸村に臨宗広通寺浪進光蓮を創立。 1628年(寛永5年)広島寺町に寺院を移 し、寺号を「善法寺」と改めた。1705年 (宝永2年)浄土真宗本願寺派、1926年(昭 和3年)第16世恵通は己斐を己斐に建て、 寺町から移転。1936年(昭和11年)本堂 建設、現在に至る。

⑦絶佳国跡

神功皇后が三韓征伐の途上「野芒ち」せ られた地と言われている。浅野時代は ホカンの貴居が打れていた。 1907年(明治40年)頃、寺入町の大村文 太郎氏が桜、かんどうを植えて絶佳園と 名付けた。山上からの眺望は大阪の泉と 花木の美さが相応で絶佳である。 現在では石段が残るのみである。

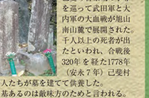
⑧御船着

200年前、仲哀天皇ときき神功皇后が三 韓征伐の途上、その船団を率いて己斐 の「御船着」と刻書き れ松山(後の旭山) に登られ野芒ちされた。この御船着は現 在も名残り が残っており、旭山の南側の 山出いっかの道で高原の入口の場所 から100メートル手前辺りが起伏して 昔海岸が 線だった様相を呈している。

⑨西福院と淡島大明神

長束山清照寺真福院 御本尊は十一面観 音菩薩、並びに淡島大明神。1503年(文 禄2年) 陸奥上人が中昌本町に建立する。 1619年(元和5年)浅野長晟公が広島へ入封の折、淡島大明神を当時の長束 原郷によって施滅 1957年(昭和32年) 己斐の旭山南西山頂に再建する。 国の指定重要文化財「銅鐘金剛宝鈴四鋲尾経 (965年作)」がある。

⑩千人墓



1457年(長禄元年) 己斐の岩原城の争奪 を巡って武田軍と大 内軍の大血戦が旭山 南山麓で展開された。 千人以上の死者が出 たといわれ、合戦後 320年を経た1778年 (安永7年)己斐村 の人たちが墓を建てて供養した。 この 2基あるのは最味方のものと言われる。 この墓はいつしか打方不明となっていたが 1936年(大正15年)竹藪の中で偶然発見さ れた。同年8月に旭山共同墓地に移された。

旧石内道の歴史めぐり (己斐橋から旧埋道経由己斐坪まで約3.1Km)

⑪瀬切石

己斐村と古江村の境界地点を瀬切石と いう。そのわれは大昔このあたりは海浮 の波打ち際で岩場がありと流から流れて くる流水が岩につきあたり瀬をなしてい たので名付けられたのであろうと言われて いる。 現在はかさな碑がある。

⑫植木屋次郎右衛門の墓

1619年(元和5年) 紀州から 3代広島城 主として浅野長晟公 が入府のとき、大坂 の紀州屋次郎右衛門 が生涯づくりのため 乗せに従って来た。 そして植木の魂地と して白洲の矢を立て たのが己斐である。 しかし、この初代次郎右衛門は大阪へ帰り その子が定住した。 従ってこの墓は子の1 代植木屋次郎右衛門の墓であろう。

⑬百花園跡と千手観音像

1883年(明治16年)に百花園が創設された。 桃と梅が多く、四方の展望が素晴らしく 特に明見ごろとして有名だった。1885 年(明治18年)、門門山観音寺(六角堂) と福音が建立された。堂には初代広島城 主毛利輝元公が城の守本尊として崇拠し たと言われる「千手十一面観音菩薩像」 が安置してあった。この像は現在は新山 千手観音堂にある。

⑭河原中の御前社跡

太古、神功皇后が朝鮮武そ したところと 言われ、祠と2本の黒松があった。こん ぜんさんの黒松と親しまれ、明治の頃、 この祠を移むようにけ10メートルくら いの幅になって盗難りをしたと言われて いる。2本の黒松のうち1本は切られ、 残りの1本も平成3年頃に枯死してしま った。現在は切株をとどめるのみである。

⑮蓮照寺

浄土真宗本願寺派、清原山蓮照寺と称す 開山は1717年(享保2年)長束村の僧恵 玉による。己斐村に一字を建立したが開 堂であった。1871年(明治4年)本願寺 より蓮照寺の称号を、1879年(明治12年) 寺号の公称を許可された。現本堂は1914 年(大正3年)建立されたものである。 鐘は1942年(昭和17年)供出、鐘楼は被 爆倒壊したが再興されなかった。

⑯光西寺

法輝山光西寺 浄土真宗本願寺派 1704年(元禄元年)に広島の細工町西向 寺の弟子智旭が己斐に開山。1705年(宝永 2年)に現在の場所に移った。 1910年(明治43年)中島町の西福寺から 移転して本堂建設、1942年(昭和17年) 梵鐘供出、1967年(昭和42年)梵鐘復元

⑰庄屋跡

己斐の溜る隼人であった土井百穀の住 居跡である。代々の庄屋で詩は蹴翁氏出 自である。景勝地松高岩付近にあり、 了度己斐村の中央に位置している。 紅葉 を愛でながら、眺り上げる岩人、風 流人、田友らと酒食がんなどし、 観詩し、 謡論されたという。 越智藩蹴がその名残 りを留めている。

⑱通玄石

明の国師元禅師(日本黄檗宗の開祖)が 1655年(明暦元年)に己斐の加々桑山(小 茶臼山)を訪れたとき、その山上からの 景色が放里通玄山のそれによく似ていた ので「通玄山」と跡名、書にしたためた。 この書を広島藩の家臣の寺内機張氏とが 手に入れ、1674年(延宝2年)頃、小茶 臼山の自然石に刻した。

⑲森の大歳社

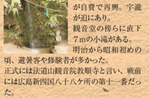
学入歳に在る。 祭神不詳は不明である。 故神は大歳神で穀物 の守護神である。1906年(明治39年)神 社合祀令が公告され、2年後の明治41年 一社一村として己斐町内の小祠が旭山神 社に合併された。大歳社の神神様も旭山 に遷されたが、地元の希望が強く元に戻 された。それ程に地元の信仰心が厚かった。

⑳坊僧観音堂

浄土宗、本堂は1532年(天文元年)己斐 村の石原第三郎が創建、1878年(明治11年) 再建。この本堂の位置が麻投げ坪、畑が、 己斐坪へ通じる道の交わるところにあり、 商業や来往地点に通じて広島へ安ってい たので格好の己斐の道路元標の役割 を果たしていた。

旭山神社境内の歴史めぐり

㉑滝の観音



任古より堂子があっ たが中古に荒り荒廃。 1850年(嘉永3年)己 斐村の越智半右衛門 が自費で再興、字蓮 が広にあり。 観音堂の側らに直下 7mの小滝がある。 滝はから昭和初めの 頃、避難所や静養者が多かった。 正式には法道山観音院観堂と言い、戦前 には広島新四国八十八ケ所の第十一番だった。

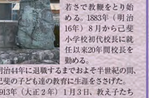
㉒国泰寺

1978年(昭和53年)中区中町より己斐上 丁目己斐坪近くに移転された。戦前は智順 寺、広島四国と共に広島3大伽藍の1つ。 開基は1594年(文禄3年)曹洞宗の瑞渓宏 安国寺に始まる。開山は1619年(元和5年) 曹洞禅伊豊洞宗国泰寺に改めたとされる。 沈野氏の菩提寺でもあった。境内には沈野 長晟公の墓や宝塔、曹洞、大石良雄の墓、 歴代各住職、寺西信之等の墓がある。

㉓土井百穀碑銘

1828年(文政11年) 己斐村の代々の庄屋 の家に生まれる。 通称善右衛門。土井百 穀は己斐が生み出し た教育者、明治維新 に於ける教育界の先 覚者にして大功功者 である。1887年(明 治20年)5月廟設右 近くの国道脇に祀す の石碑。手前が墨痕鮮を留ました。 没後55 年を経た1927年(大正5年)5月15日「百 穀翁追慕会」が町を あげて盛大に行われた。 その折、石碑も旭山神社下境内に移された。

㉔上野旭峯彰徳碑

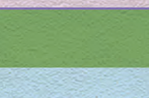


1890年(嘉永3年) 10月己斐に生まれる。 通称は啓蟲。土井百 穀の愛弟子で12歳の 若さで教壇をとり始 める。1883年(明治 16年) 3月から己斐 小学校初代校長に就 任以来20年間役長を 勤める。 明治44年に退職するまでおよそ半世紀の間、 己斐の子ども達の教育に生涯をさうけた。 1913年(大正2年) 1月31日、教え子たち が先生の徳をたたえて碑を建てた。

㉕橋本調二翁頌徳碑

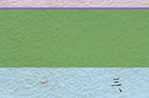
この頌徳碑は1963年(昭和36年)4月26 日有志によって建立。1884年(明治17年) 己斐に生まれる。熱血漢で己斐町民がこ ぞって信頼を寄せたものである。己斐 町消防組織にあなること16年余年、大正15 年9月東京で全国消防組織大会があった 折、昭和天皇から「あの元気の良いもの は誰か」と下問されたという。

㉖大正天皇御即位紀念樹



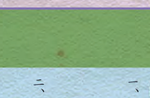
1915年(大正4年)11月10日新天皇(後 の大正天皇)が即位されたのを記念して 旭山神社参道の石段八合目あたりのこの 地に己斐町民が植を植樹した。 2015年(平成27年)11月10日で植樹され て100年を迎え、己斐で一番の大樹となった。 胴回り14m

㉗思魂碑



1922年(大正11年) 10月、旭山神社鳥 の橋に建立。1907年 (昭和12年)社殿を 建て替えるため現在 地に移設。加工石で、 はじ型の最も大きな 石碑である。背面に は沈中殿役からシベ リア出兵までの戦死 戦病死者18名の氏名 が銘刻されている。 GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)に より除去命令が出たが、当時の川本道市町 内会長がセメントを使って補強した。

㉘雙翠萬古の碑



1900年(明治33年) 5月10日明宮殿下(東王 はるのみやそしひと とんのう)(後の大正 天皇)と久条節子(く じょうさだこ)(後の 貞明皇后)とが結婚 された。 この碑は、おめ ぢの永久の繁栄を 願って参道の石段を 4号切ったかし手前 の地にこの「雙翠萬古」の碑を建立した。

㉙絵馬堂(旧社殿)

この絵馬堂は現在の祥殿があるところに 江戸時代43年(天保14年)に社殿として 建てられたものである。 1937年(昭和12年) 9月、社殿建て替え のため現在地へ移設された。己斐町の中 で最も古い建物である建築物である。堂 内には興業の絵馬が掲げてある。

㉚旭山神社

200年前神功皇后が伝山に上られて野立 されたとき多くの神に大祭者ばれたこと から地名を禅とし、その由緒から八幡宮 を勧請し、推定800年前己斐東土八幡宮 が誕生した。 1555年(弘治元年)毛利元就が厳島合戦 の戦勝祈願に祝の甘を注れたとき丁度明 日が月りくるのを見て緑起良いとして旭 山八幡宮と称された。

己斐音頭

一、己斐祭りのお祝いに
己斐の始まり旭山
八幡神社の名の起こり
伝えて聞いて物語り
音頭に載せて言祝がん

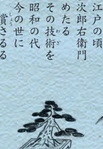
二、己斐のいわれは其のかし
神功皇后三韓征伐
出で給いその折に
鯉を上り奉る
勝の主に

三、時代代下って戦国の
動乱続くさのその最中
毛利元就の殿様
暗む剣の必勝を
出づる朝日に祈念して
名付け給いし旭山
八幡神社と称したり

四、ずいと下って江戸の頃
己斐の植木屋次郎右衛門
上の越に始めたたる衛門
植木・盆栽その技術を
明治・大正・昭和の代
代々受えて今の世に
己斐の植木と一貫さるる

作詞者 田中 武
作曲者 中野 茂

作成年月日 平成28年4月1日



己斐の歴史年表

二〇〇年頃		神功皇后が朝鮮に大船を浮べられたのを地名を「鯉」とした。
七〇一	大宝元	ある国司ささき群村誕生。
七〇一	和銅元	安芸国佐伯郡に足利とする
一一六四	長寛二	安芸国佐伯郡に足利とする
一五五五	弘治元	毛利輝元が厳島の戦に勝利。
一五八九	天正一七	毛利輝元が厳島の宮殿決めに旭山に住る
一六一九	元和五	浅野長晟が広島城の石垣作りに己斐に住る
一六六四	寛文四	安芸国佐伯郡に足利となる
一七〇一	明治四	広島県佐伯郡に足利となる
一八七一	明治四	広島県佐伯郡に足村となる
一八七三	明治六	広島県佐伯郡に足村となる
一八七七	明治一〇	己斐小学校の前身となる「村立日彰組」を開校する
一八八七	明治二〇	己斐小学校の前身となる「村立日彰組」を開校する
一九一一	明治四四	広島郡に足町となる
一九一二	明治四四	佐伯郡に足町となる
一九二九	昭和四	広島郡に広島市に足町となる
一九八〇	昭和五五	広島郡広島市西区に己斐一町となる